■宮本武之輔　　土木技術官僚。優れた実績や著作を残しただけでなく，エッセイや啓蒙書でも一級の名文を書いた。
みやもとたけのすけ
大本教・・・1892＝　　愛媛県の現在は松山市内になっている小島に生れた。父は船問屋出の母の再婚相手であって，島一番の広い家であったが，没落しつつあった。
日清戦争始・1894＝ 2歳：

_7つ年上の異父兄の俊才窪内石太郎から，生涯にわたって実弟のように指導され，大きな影響を受ける。

子規句歌革新1898＝ 6歳：1つ早く，尋常小学校に入学。

成績は極めて優秀であった。
田中正造直訴1901＝ 9歳：

日露戦争始・1904＝12歳：事業に失敗し，自殺まで考えた父とともに，広島宇品に移り，高等小学校に転入。
日露戦争終・1905＝13歳：卒業し，広島商業学校に入学を希望したが，年齢不足でできず，私塾に通い，国語，算術，英語を学ぶ。
満鉄発足・・1906＝14歳：伯父の勧めで単身大阪に出，貨客船の船員として雇われたが，
韓国反日暴動1907＝15歳：_窪内石太郎からの勧誘と郷里の素封家宮田兵吉からの援助の申し出で，船に置き手紙を残して，上京。神田の私学錦城中学に入学し，たちまち首席となった。
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝16歳：同級生と回覧雑誌｛南風｝を発刊，編集責任者となる。次々と創作を発表。
伊藤博文暗殺1909＝17歳：アルバイトで学習塾の講師をつとめ，そこに来た女生徒に初恋。「動揺」「疲労」などの作品集にまとめるなどして，_文学を志すが，石太郎から鉄槌を受けて断念。
韓国併合・・1910＝18歳：_首席で卒業。第一高等学校第二部甲類（工科）に無試験入学。

明治天皇没・1912＝20歳：校内の煙突から墜落，九死に一生を得，1年休学し，郷里に近い道後温泉で静養。
大正政変・・1913＝21歳：父が死去，衝撃を受け，四国のお遍路の旅に出た後，復学。
第一次大戦始1914＝22歳：_卒業し，東京帝国大学土木工学科に入学。
21ヶ条要求・1915＝23歳：_主任教授から高く評価され，また成績が工科全体でトップで，以後特待生となったばかりでなく，鹿島岩蔵奨学金を支給されることにもなった。
民本主義・・1916＝24歳：_外部の専門誌に論文を発表，このデビュー作に彼の主張のすべてが表れている。
ロシア革命・1917＝25歳：母が死去。実業家の一人娘と婚約。_首席で恩賜の銀時計を受け，卒業。内務省関東土木出張所に勤務。
本格政党内閣1918＝26歳：_仕事のかたわら，勉学を続け，また，論文の投稿も行った。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝27歳：_内務省技術官僚として任官。
大暴落・・・1920＝28歳：結婚。_論文「都市計画について」。小名木川閘門設計。同志と「日本工人倶楽部」を創設，｛工人｝を発刊。
原敬首相暗殺1921＝29歳：長女誕生。
関東大震災・1923＝31歳：長男誕生。_関東大震災直後，後ろ髪を引かれる思いで，既に決まっていた欧米出張に出た。
欧州各国をまわり，特に，ドイツで学び，イギリスでフェビアン協会，労働党などを訪ね，
治安維持法・1925＝33歳：アメリカを回って，さらに研究したのち，_帰国。懸案の論文をまとめ，
円本時代始・1926＝34歳：_さらに，「コンクリート及び鉄筋コンクリート」を発刊。
金融恐慌・・1927＝35歳：次女誕生。*土木学会賞を受け，工学博士にもなった。
共産党事件・1928＝36歳：*陥没した信濃川河口堰の補修工事に，内務省の威信を担って派遣され，青山所長のもとで着手。
この間，メディアの追及に対応して，逆に啓蒙の場としたり，天皇即位の大典に合せてイベントを企画するなど，活躍。他方，寺泊の若い芸妓との愛が進行したが，相互に身を引く悲恋に終る。
海軍軍縮条約1930＝38歳：次男誕生。_豪雨により，大洪水の状況となった際，工事中の仮閉め切りを破壊して，多くの命を救う。工事は遅れることになったが，英断であると高く評価された。
満州事変・・1931＝39歳：_補修工事が完成し，盛大な見送りを受けて，新潟を去り，再び本省勤務となった。
不況が深刻化し，多くの技術者が失業して行くのを見て，リストラ反対運動をする。
国際連盟脱退1933＝41歳：度重なる満州国への派遣の勧誘を固辞。
帝人疑獄事件1934＝42歳：_コンクリート工法の決定版「鉄筋コンクリート」。名文家の評価が定着した「技術・社会・人生」。
芥川直木賞始1935＝43歳：_室戸台風の被害後の総合水害対策を立案，取りまとめ，メディアを活用して，一般への浸透を図る。
二二六事件・1936＝44歳：_名著「治水工学」と「河川工学」。東京帝国大学の講師を経て，
日中戦争始・1937＝45歳：*教授に就任。その後も，技術者優遇のための活動は続けながら，著作，投稿，講演，ラジオ出演と多忙。
健保+総動員 1938＝46歳：「材料及び施工」。_興亜院技術部長に就任，土木技師から離別。当時では珍しいマニュアル本「災害読本」。
第二次大戦始1939＝47歳：「技術者精神」「最新河川工学」。_技術者による最高のエッセイ集の一つ「技術者の道」。4つ年上だが，一高で同期（文科）だった菊池寛と，四国出身ということを知って親交，菊池寛が｛文芸春秋｝に彼の人物評を書いた。この年，故郷の恩人宮田が死去。
大政翼賛会・1940＝48歳：「技術と国策」「現代技術の課題」。_大作で大学教材ともなった「力学」。
日米開戦・・1941＝49歳：*技術官僚として初めて企画院次長に任ぜられたが，急性肺炎のため入院。私淑してきた異父兄窪内石太郎が死去して，衝撃を受け，NHKでの「国民に告ぐ」の放送を最後に，没した。
「科学技術の新体制」「科学の動員」「大陸建設の課題」。

高崎哲郎「工人宮本武之輔の生涯」，